

歴博くらしの植物苑だより

「伝統の桜草」展開幕

4月15日(火)から伝統の桜草展が開幕しました。今年は大変天候が余りよくなく花の咲がいまひとつですが、段々と咲いていきます。



“赤蜻蛉”

くらしの植物苑観察会 13:30~15:30

4月29日(火) 祝日 歴博みどりの日入苑無料

第109回 『新緑の城址公園を歩く』 中川重年 (本館客員教授)

5月24日(土) 第110回 『身近な山菜』 中川重年 (本館客員教授)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

今咲いて花: カヤ、ニワトコ、ボケ、シャガ、イチイ、ハラン、ダイコンソウ、アケビ、ミツバアケビ、アセビ、フッキソウ、スモモ



“藤の里”

朝顔のラセン作りを考案した尾崎哲之助さんが作出。



“太子紅”

茨城県の野生種です。



“初姿”



“雨中の桜”



“飛燕”

“イカリシボリ”(ツバキ科ツバキ属) 椿の園芸品種で、八重咲覆輪の花です。



ニリンソウ (キンポウゲ科イチリンソウ属) 林縁に生える多年草です。地下茎で増え群生することが多く、葉には白い斑が入ることもあります。花卉はなく白色のがく片が花卉のようにみえています。花は2輪のこともありますが、1から3輪のこともあります。中: 林萌銀蓮花といひます。



ハラン (ユリ科ハラン属)

中国の中南部原産で、常緑の多年草です。根茎が地中を横に伸び節に葉柄をつけます。葉の広狭や厚さなど、たくさんの園芸品種があります。葉に縦の縞、星斑など明治期には 100 余りの品種が紹介されています。王冠みたいにみえるのが花です。英: Cast - Iron Plant、中: 蜘蛛抱蛋といひます。



ハナズオウ (マメ科ハナズオウ属)

中国原産の落葉低木です。葉が出る前に花が咲きます。花は昨年の枝に束になって付きます。花は蝶形花と似ていますが、旗片の大きさや付く位置が違います。花の色が蘇芳染めの色に似ることからスオウバナといわれたといひます。苑内には白色の栽培品種もあります。英: Chinese Redbud、中: 紫荊といひます。



モクレン(モクレン科モクレン属)

5 mにもなる落葉低木で、葉の展開前の1ヶ月ほどの間に赤紫色の花をつけます。花弁は6枚、がく片は3枚あります。中国ではハクモクレンとともに高貴な花木として植栽されます。英: Lily Magnolia、中: 辛夷、桂蘭といひます。



クロフネツツジ (ツツジ科ツツジ属)

クロフネツツジ類は5枚の葉が枝先につきます、花は大きく長い雄しべが10本あります。ツツジ属は葉や枝に毛があるか、葉と花が混芽しているか、花糸に毛があるか、腺がどこにあるかなど、細かく見て区別をします。日本にも50余種分布します。また多数の園芸品種がつくられています。



ミツバツツジ (ツツジ科ツツジ属)

庭木としてよく植栽されていますが、分布域はあまり広くなく、関東地方から近畿地方の太平洋側に自生しています。ミツバツツジ類は花と葉が同じ冬芽の中にあります、また植物全体に腺がありべたべたします。雄しべは10本で長さは不ぞろいですが。

